

大学の教育内容の比較分析方法

1. 「教育内容の分析について」

『獣医学教育において最低限必要とされる教育内容』（小委員会作成）と当該大学のシラバス（各大学作成）の教育内容を比較する。

①各履修内容（ex講義2単位につき15項目程度）について、当該履修内容がシラバスにおいてどの科目内に位置づけられているかを確認し、履修内容に応じて、○・△・×の3段階の視点をもって分析を行う。

②. ①における○・△・×の割合に応じて各科目について、A・B・C・D・Eの5段階の視点をもって分析を行う。

2. 「教育体制分析について」

各大学の教員名簿と研究開発支援総合ディレクトリ「ReaD」等を用いて、各科目（履修内容）について教育体制を分析する。

①. 履修内容の教育体制について、担当教員の専門性・職制に応じて、a・b・cの3段階の視点をもって分析を行う。

3. 「分析基準」

(1)教育内容について

①履修内容の分析について

分析結果	分析基準
○	当該履修分野が概ね教育されていると見なすことができる
△	当該履修分野の一部が教育されていると見なすことができる
×	当該履修分野が教育されていないと見なすことができる

※「△」が付いた履修内容二つで、「○」一つとして換算

②科目の分析について

分析結果	分析基準（履修内容の分析結果における「○」の割合）
A	必要とされる履修分野が十分に教育されている（80～100%）
B	必要とされる履修分野が概ね教育されている（60～79%）
C	必要とされる履修分野が半分程度教育されている（40～59%）
D	必要とされる履修分野があまり教育されていない（20～39%）
E	必要とされる履修分野がほとんど教育されていない（0～19%）

(2)教育体制について

①講義科目の教育体制の分析について

分析結果	分析基準
a	当該分野を専門とする専任の教授・准教授が担当している科目
b	当該分野を専門とする専任の講師・助教、もしくは他分野を専門とする専任教員が担当している科目
c	上記以外の教員が担当している科目（例：兼任教員や非常勤教員等）

②実習科目の教育体制の分析について

分析結果	分析基準
a	当該分野を専門とする専任の教授・准教授・講師・助教が担当している科目
b	他分野を専門とする専任教員が担当している科目
c	上記以外の教員が担当している科目（例：兼任教員や非常勤教員等）

※複数の教員により実施されている科目は、教員の属性を平均して分析を行う。

※実習の担当教員については講師・助教が担当者であっても、教授・准教授と同じように扱う。

※教員の専門性については、担当授業科目名に関連する研究実績・実務実績があるか否かで判断する。分析にあたっては研究開発支援総合ディレクトリ「ReaD」等を活用して分析を行う。

(<http://read.jst.go.jp/>)